

# Sou Sou 授業づくり支援ナビ

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、授業をどのようにデザインし、教師はどのような役割を果たせばよいのでしょうか。

相双教育事務所では、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業デザイン例と授業デザイン例の活用の仕方について、Web上の特設コーナー「SouSou授業づくり支援ナビ」にて紹介しています。

ぜひご利用ください。

## ▶ 「対話的な学び」を具現する授業デザイン例

国語 生活 体育 道徳

算数 図画工作 保健体育

理科 美術 外国語 計 15 授業



## ▶ 「深い学び」を具現する授業デザイン例

国語 数学 美術 外国語

社会 理科 体育 道徳

算数 図画工作 保健体育 計 23 授業



## ▶ 各教科等において育まれる資質・能力を支える「自立活動」授業デザイン例

自立活動

計 2 授業

## ▶ 授業デザイン例活用のススメ

「SouSou授業づくり支援ナビ」では、各授業デザイン例の活用方法を掲載し、より手取りやすいようにリニューアルしました。ぜひご覧ください。

令和 8 年度  
相双教育アピール  
授業づくり編



# 未来を拓く教育を相双から

私たち教師は  
目の前の子どものもっているよさや可能性が存分に発揮され  
子どもが生き生きと活動する授業を目指して  
日々、自分の授業変革への思いを強く抱き努力しています  
(平成 10 年 授業改善ハンドブック「授業の窓」授業を創る 福島県教育資料研究会)

30年ほど前の教師も抱いていた  
授業変革への思いを  
これからも私たちで



# 「感じて動き出す」学びへ

福島県教育委員会  
「授業改善グランドデザイン」より  
(相双教育事務所 HP からダウンロードが可能です)

## 教師が「話す」授業から、 教師が「みる」「きく」「つなぐ」授業へ

### 授業改善3つのポイント

#### 1 学び出す

「確かめたい」  
「考えたい」  
「やってみたい」

すべての子どもが課題解決の見通しをもったり、解決方法を選択したりして、自ら動き出そうとする授業にします。

#### 2 学び合う

「話したい」  
「聞きたい」  
「話し合いたい」

すべての子どもが友だちの話に耳を傾け、自分の考えを確かにしたり、新たにしたり、磨き上げたりする授業にします。

#### 3 学びとる

「分かった」  
「できた」  
「がんばった」

すべての子どもが今日の授業で「自分は何がわかり、何ができたのか」を実感できる授業にします。

### 時代が求める「対話的な学び」

様々な要素を含む困難な問題を抱える本県であるからこそ、多様な他者との対話や協働を重視していくことが必要になってくる。(第7次福島県総合教育計画より)

他者と対話したり協働したりしながら新しい価値を創造する「新しい学びのかたち」の充実発展が重要となる。(令和8年度相双教育アピール教育理念より)

### 支持的で創造的な学級

#### 「対話的な学び」

子ども同士の協働、教職員や地域の人々との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広く深める学び(学習指導要領より)

#### 「対話」の基本事項 ～「話し合い」＝「対話」とは限らない～

- ▶ 「対話」とは、「聴き合い」
- ▶ 「対話」とは、軸(課題)に肉付けする一連の営み
- ▶ 「対話」とは、他者と自分の考えとの擦り合わせ

【令和8年度 共通実践事項】

## 考えを広げ深めるための「対話的な学び」の実現

### 育成する資質・能力の明確化

魅力的な教材、  
課題の設定

「わからなさ」から  
生まれる学び

### 「対話的な学び」を引き出す 教師の仕掛け

支持的で  
創造的な学級

認め合い、励まし合い、支え合う  
共感的な人間関係の  
組織的な育成

対話を活性化させる  
ファシリテーション

「ティーチング」から  
「コーチング」への転換



自身と対峙する  
場面の設定

自分の考えとの擦り合わせ  
(自己内対話)

【参考文献】・石井順治『「対話的な学び」をつくる一聴き合い学び合う授業―』ぎょうせい、2019  
・田村学『授業を磨く』東洋館出版、2015  
・文部科学省「生徒指導提要」2022

### 教師のファシリテーション

ファシリテーション  
facilitation

集団が持つ知的相互作用(対話)を促進する働き。人が本来持っている力を引き出し、相互にかけ合わせることで増幅し、集団の力を最大限に高めていくこと

(中央教育審議会『令和の日本型学校教育』を担う教師の在り方』特別部会資料「教師に求められる資質能力の再整理」より)

教師には、**子どもの力を信頼し、発言を促進しながら、子ども同士をつなぎ、思考を広げていく**役割があり、次のような意識を持つことが大切になります。

子どもが「何を、どのように  
考えているか」を見取る

様々な場面をとらえて、できるだけ子どもを観察し、理解しようとする教師の姿勢が大切になってきます。

「語り手」でなく  
上手な「聞き手」になる

授業の主役は「子ども」です。「間」や「沈黙」をおそれず、時には「忍耐強く待つ」ことも大切です。

子どもの学びを受け入れ  
つなぐ姿勢をもつ

子どもの考えや発言をつなげ価値付け、よりよい考えに高めていきましょう。

子どもの持つ  
「自ら気づき学ぶ力」を引き出す

子どもの力を信じ、主体的な学びを支援する**伴走者**になりましょう。「ティーチング」から「コーチング」へ転換しましょう。



【参考】福島県教育委員会「ふくしまの『授業スタンダード』」2017、pp.4-5 見取りと支援について  
福島県授業改善研究会「授業をつくる16の視点」2013、p.46 pp.50-53